

## 「パレスチナ自治区ガザ」

2014年07月28日

パレスチナ自治区ガザの面積は360 km<sup>2</sup>、東京23区の約6割で、人口は181万人である。南のエジプト、北のイスラエルからも封鎖され、狭い所に押し込まれている。そこへ、イスラエル空軍が爆撃し、地上部隊からも砲撃され、死者は千人を超え、死傷者は日毎に増えている。兵器の格差が、赤子の手をねじ上げるような様相になっている。残酷この上ない。かつて、ユダヤ人が閉じ込められた悲劇の「ワルシャワゲットー」を連想する。

パレスチナ人権派弁護士のスラーニ氏は、第二のノーベル平和賞と言われるライト・ライブリフッド賞を受賞した。スラーニ氏は来日する予定であったが、封鎖されているため、海外に出ることができない。ジャーナリストの土井敏那氏がスカイプでガザの状況を聞いたインタビューを『週刊金曜日』に報告している。ガザの住民の危機的な現状を少し長いが、紹介したい。

「4年前の攻撃との違いは？ — 今回も誰もこの攻撃から逃れられないと感じています。どこにいても空爆の衝撃で家が揺れ、住民は心底、恐怖に陥っています。

医薬品は不足していますか？ — ガザの保健省によれば昨日（9日）の時点で、病院に必要な医薬品の25%の種類が不足し、別の25%も明日までに底をつくような状況です。負傷者に手当てや手術が必要ですが、基本的な薬品や縫合糸がありません。国境が封鎖されているからです。

食料はどうでしょう？ — イスラエル側から物資が入ってくる検問所は今、機能していないので、この問題は深刻です。ガザ住民の85%に食料を配給している国連機関は深刻な財政難のため食料を搬入できません。すぐに配給できない状況に追い込まれるでしょう。また、生命線だった地下トンネルも機能していません。

この厳しい状況下で、人々はどんな思いを抱いていますか？ — ガザは“動物の農場”のような状況です。封鎖、失業、貧困、分断、爆撃、殺戮、流血…。自分の運命を自分で決められず、普通の人のように行動することもできません。ガザの人々は失うものは、もうないのです。この悲惨で非人間的な状況の中で、イスラエルの抑圧と攻撃を甘受するだけで抵抗しない“いい犠牲者”ではありたくありません。人間としての“誇り”と“強さ”を持ちたいのです。絶望感の中でも人々は自由と尊厳を大切に思っています。自分の子どもの眼に羞恥ではなく、“誇り”を見たいと願っているのです。」

このような悲劇があってはならない。アウシュビッツの隣のビルケナウに行った時、大規模に配列された殺人工場のような跡地に息を飲んだ。ソ連軍が侵攻する際、ドイツ軍はガス室を爆破して逃亡した。ガス室は粉々になった煉瓦の山だった。崩壊の危険からであろう「中に入るな」と書かれていた。「取るな」とは書いてなかったので、小さな煉瓦の破片を一ついただいて帰った。ユダヤ人の血と涙がしみ込んだ煉瓦である。大事に保管し、時々見て、人間の罪の結晶と思っている。ところが今、イスラエルは同じ虐殺をパレスチナ人に行っている。世界は世論を集め、イスラエルの暴虐を止めさせるべきである。インターネットで「イスラエル・パレスチナ：悪循環を終わらせるために」の署名活動をしている。下記へアクセスしてご署名ください。150万人を超える賛同が寄せられている。

[https://secure.avaaz.org/jp/israel\\_palestine\\_this\\_is\\_how\\_it\\_ends\\_loc/?tMBtChb](https://secure.avaaz.org/jp/israel_palestine_this_is_how_it_ends_loc/?tMBtChb)